

日本海側の海域活断層の長期評価 一兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖一 (令和6年8月版) のポイント

長271—参考資料7-2

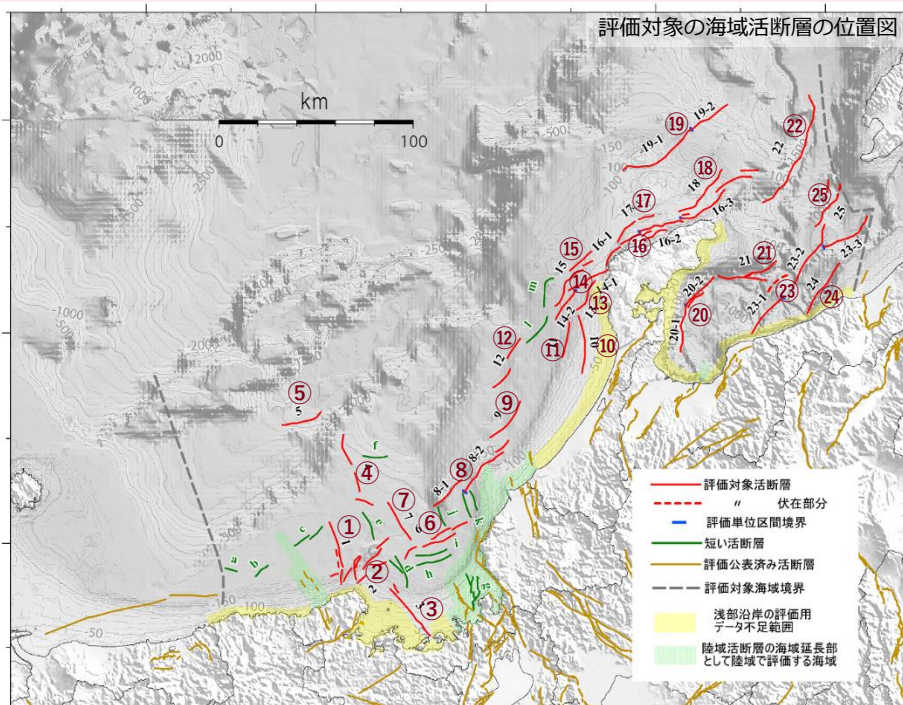
地震調査研究推進本部
事務局

- 2024年1月1日の能登半島地震の発生を受け、速やかに防災対策にも活用できるよう、**兵庫県北方沖～新潟県上越地方沖の海域活断層の、位置・長さ・形状・そこで発生する地震の規模等**について、前倒しして公表する。今回は、**地震発生確率の評価**は行っていない
- 主に**長さ20km以上の計25の海域活断層（帯）**の特性を評価
- 今後、今回の領域の地震発生確率の評価と、**新潟県沖～東北地域～北海道地域の日本海側の海域活断層の評価**を行い、公表可能な結果から、**順次公表を行う予定**

計25の断層（帯）について、断層の位置等を評価

＜評価対象の海域活断層（M（マグニチュード）は断層（帯）全体が同時に活動した場合の地震の規模）＞

- ① 沖ノ礁北方断層（25km程度、M7.2程度）
- ② 経ヶ岬沖断層（36km程度、M7.4程度）
- ③ 小浜沖断層（33km程度、M7.4程度）
- ④ 浦島礁北方北断層（40km程度、M7.5程度）
- ⑤ 若狭海丘列北縁断層（21km程度、M7.0程度）
- ⑥ 越前岬西方沖北断層（38km程度、M7.5程度）
- ⑦ 浦島礁北東断層（23km程度、M7.1程度）
- ⑧ ゲンタツ瀬・大グリ南東縁断層帯（52km程度、M7.7程度）
- ⑨ 加佐ノ岬沖断層（25km程度、M7.2程度）
- ⑩ 羽咋沖東断層（30km程度、M7.3程度）
- ⑪ 羽咋沖西断層（21km程度、M7.0程度）
- ⑫ 内灘沖断層（29km程度、M7.3程度）
- ⑬ 海士岬沖東断層（21km程度、M7.0程度）
- ⑭ 門前断層帯（38km程度、M7.5程度）



- ⑮ 沖ノ瀬東方断層（35km程度、M7.4程度）
- ⑯ 能登半島北岸断層帯（94km程度、M7.8-8.1程度）
- ⑰ 輪島はるか沖断層（24km程度、M7.1程度）
- ⑱ 能登半島北方沖断層（31km程度、M7.3程度）
- ⑲ 舳倉島近海断層帯（64km程度、M7.8程度）
- ⑳ 七尾湾東方断層帯（43km程度、M7.6程度）
- ㉑ 飯田海脚南縁断層（31km程度、M7.3程度）
- ㉒ 富山トラフ西縁断層（61km程度、M7.8程度）
- ㉓ 上越沖断層帯（86km程度、M7.8-8.1程度）
- ㉔ 名立沖断層（31km程度、M7.3程度）
- ㉕ 上越海丘東縁断層（25km程度、M7.2程度）

2024年1月1日の能登半島地震に伴う隆起を、⑭門前断層帯の門前沖区間東部～⑯能登半島北岸断層帯にかけて確認している。また、地震調査委員会は、この地震の震源断層は、北東－南西に延びる150km程度（⑭門前断層帯～⑯能登半島北岸断層帯～㉒富山トラフ西縁断層にまたがる範囲）の主として南東傾斜の逆断層であると評価している。これらのような隣接している活断層帯又は活断層は、部分的に同時に活動する可能性を否定できない。

海域活断層の評価手法

- ① M7.0以上の地震を引き起こす活断層を評価
- ② 反射法地震探査による反射断面、海底地形・地質、既存研究の断層モデル等から、断層の位置、長さ、形状等を推定
- ③ 地震の規模（M（マグニチュード））は、断層長さとの関係式を用いて推定
- ④ 平均活動間隔を推定し、地震発生確率を評価（未実施）

参考：日本海南西部の海域活断層の長期評価（令和4年3月）の概要

- ・ 長さ20km以上の計37の海域活断層（帯）を評価
- ・ 活断層の分布や地質構造、陸域の地域評価の区域分けを考慮して、西部（9断層）、中部（17断層）、東部（11断層）に評価対象海域を区分
- ・ 最大の断層帯：「西部：73km程度、M7.9程度」「中部：49km程度、M7.7程度」東部「94km程度、M7.7-8.1程度」
- ・ 今後30年以内のM7.0以上の地震発生確率：「西部（1-3%）」「中部（3-6%）」「東部（3-7%）」
「全体（8-13%）」